

平成 26 年度 第 1 回モトクロス委員会

【議事録ダイジェスト】

開催日 : 2014 年 7 月 1 日(火) 午前 10 時 30 分 ~ 午後 5 時

開催場所 : MFJ 会議室(東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F)

1. 前回議事録の確認

平成 25 年度第 2 回モトクロス委員会の議事録が提出され、承認された。

2. 2014 年度前期開催状況報告

1) ライセンス登録者数について

事務局より資料に基づき、ライセンス登録状況について報告された。

- 全体的に“右肩下がり”の傾向で、国際 A 級のみ、ほぼ同数をキープしているが、その他は減少。
- 高齢化が進む他種目に比べ、モトクロスは 9 歳~15 歳の年代が最も多いが、50 歳以上で大幅に減少。
- 30 歳以上の新規取得者が少ない。
- 6 月 30 日時点の昨年同日比表より、PC(213%)、ジュニア(103%)と年少者世代が増加しているものの、NB(98%)、NA(79%)、IB(83%)、IA(92%)が減少し、合計で 94%となっている。
- 新規取得者は、ジュニア(76%)、NB(81%)と厳しい数字となっているが、PC(175%)は好調。スクールやホビーレース等を地区ごとに企画、開催することで、新規の需要は上がる可能性もある。

2) 全日本開催状況について

- 観客数は、第 4 戦 SUGO 大会までで、第 1 戦~第 3 戦までが天候に恵まれた為、108%と増加している。
- エントリー台数は、全日本選手権と併催クラスを合計した数字では 105%と増加。但し、昨年好調だった IB クラスが、IB2(96%)、IBOPEN(99%)と微減。また年齢制限規則緩和の影響により、IA1(85%)が減少しているが、IA2(118%)が増加。※規制緩和によって IA2 にクラス移動が増えた。レディース(112%)、チャイルド(109%)、併催ジュニア 85(121%)は順調である。

3) その他報告事項

- BS12 で毎週月曜夜 8 時から、全日本モトクロス選手権と全日本ロードレース選手権の番組が放映中。
- MFJ オンラインマガジンに FaceBook による情報配信が開始された。
- 全日本 MX 専用 WEB が紹介された。 <http://jmx.jp/>
- 2014 ライディングリミテッドが 6/25 に発行され、藤沢大会・SUGO 大会・近畿大会場で観客へ配布予定。
- 東京モーターサイクルショーにて、メーカーの協力により MFJ ステージイベントが実施された。
- 評議員の風間深志氏主催による「サンライズ・サンセット・ツーリングラリー」が 5/24-25 に開催された。

4) MFJ 事務局検討事項について

① 観客保険料

競技会での賠償リスクから主催者を保護する為に設定している観客賠償保険掛金は競技会申請時に主催者から公認料とともに徴収し、MFJ が保険会社と一括契約しているが、事例の多発により保険掛金が値上がり、さらに競技会申請数の減少もあり、本制度を支える為、保険掛金を以下の通り改訂することが説明された。

<改訂提案>	全日本MX選手権	...	30,000(保険料)+ 80,000(申請料) = 110,000 円(合計)
	MX地方選手権&県大会	...	16,000(保険料)+ 7,000(申請料) = 23,000 円(合計)
	MX承認競技会	...	10,000(保険料)+ 7,000(申請料) = 17,000 円(合計)

※保険掛金のみ値上げとし、申請料は据え置き。

※2015 年 1 月 1 日以降に開催する競技会に対し、適用とする。

② 競技会申請期限

2014 年 10 月から競技会の WEB 申請を行う為、申請期限を下記の通り変更することが承認された。

- 前年 11 月末 世界選手権、国際選手権、MFJGP、国際競技会
- 前年 12 月末 準国際競技会、特別競技会、全日本選手権、エリア選手権、地方選手権
- 開催日 1 か月前 その他公認競技会、承認競技会、承認行事
※2015 年 1 月 1 日以降に開催される競技会に対し、適用とする。

③ ライセンス取得講習会

MFJ ライセンス取得講習会の申請料を年間で 1 度支払えば、年内は何度でも開催可能とする。また、インストラクターの資格制度の有効活用として、MX(PC・J)、TR(J)、SN(J)、エンジョイライセンス取得の権限を持たせる。 ※2015 年 1 月 1 日以降に開催される MFJ ライセンス講習会に対し、適用とする。

継続審議 ライセンス講習会年間申請料の金額設定は、MFJ 本部事務局にて次回までに決定し、報告する。

④ エンジョイ会員

承認競技会の活性化対策として、エンジョイ会員の金額設定を引き下げることが報告され、承認された。

	会費	保険区分	保険料		手数料	新料金	現状
エンジョイ会員	1,000	C	1,850		500	3,350	5,350
	1,000	A-1※	800	※2015 年 3/31 まで中学生以下	500	2,300	4,350

※2015 年度エンジョイライセンス(有効期間:2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)から開始とする。

意見

- ✓ ライセンス当日発行の要望もあるが、スポーツ安全保険への加入手続きが必要な為、対応は不可能。
- ✓ 有効な MFJ ライセンス所持者であれば、当日エントリー受理は、可能である。

⑤ 公認競技会のポイント対象期間

ライセンス期間(4 月～3 月)と競技会期間(1 月～10 月)の違いから、資格確認や作業的な面で不都合が生じていないかどうか?各地区代表委員より参考意見として伺った。

継続審議

8 地区代表委員からは、「ライセンス年度と競技会期間を合致(4 月開幕～)することに賛同」、または「MFJ で決定した事項に従う」との意見が多かったが、池尻副委員長より、現在 1 月～3 月に地方選手権を開催している主催者の意向を確認すべきとの意見が出され、確認の上、本部事務局へご報告頂くこととされた。なお、本件は他種目との整合性も考慮すべき事項である為、モトクロス委員会の見解は統一とせず、上記意見を参考として他種目との兼ね合いも考慮し、本部事務局調整に一任することが了承された。

5) 2014 全日本MX選手権シリーズ暫定ランキング(第 4 戦まで)の報告

- ① 平成 26 年 4 月 23 日に行われた国内規律裁定委員会の決議により、IA1 成田亮選手の最終戦までの合計ポイントから 5 ポイント減算と選手ならびに所属チームへ罰金が科せられたことが報告された。
- ② 悪天候の影響で、第 4 戦 SUGO 大会の LMX 予選は土曜日にレース形式で試みたが、走路不良でスタック車が続出した為赤旗で中止とし、翌日曜にタイムアタック方式による予選に変更したものの、さらなるコースコンディション悪化により決勝レースが中止となった経緯が主催者から報告された。

主催者からの提案

- A) 国内競技規則では「41 ページ 28-7」に基づき、エントリー料金の返金対応をすべきであるが、本大会に限り、日曜タイムアタック方式で行われた予選結果は「正式」として認定しているが、主催者の判断により、本大会でレディースクラスに選手受付した選手全員にエントリー料金の返金対応を行ったことに対し、事後報告となるが MX 委員会で承認願いたい。
- B) 大会当日、要望があったことを受け、10 月 25 日～26 日にスポーツランド SUGO で開催を予定している最終戦において、レディースクラスの代替開催を行いたい。

概要案 … MFJGPMX 大会時に予選・決勝を 2 戦分(エントリー料金 2 戦分必要)行う。
 25 日(土)に「第 4 戦」として予選、決勝レース、「最終戦」予選レースを行い、
 26 日(日)に最終戦(GP ポイント対象)決勝レースを行うスケジュール。

決定事項

- ✦ 2014 年度全日本選手権レディースクラスは、**8 戦中 6 戦の有効ポイント制**とし、ランキングを決定する。(第 4 戦は“中止”とし、代替開催は行わない)
- ✦ 予選結果(タイムアタック)が正式となったにも関わらず当該クラス受付済選手全員に返金された件については、選手に対し迅速な対応をとる為、既にエントリーへ進行されている事項であることから、今回に限り承認するが、今後は同様の事例は認めず、2014 年度国内競技規則 41 項 28-7 に則り、「予選が 1 回も行われず中止された場合は、選手受付した全員」、「予選が行われ、決勝グリッド発表後に中止された場合は、決勝進出者のみ」の規則を遵守することとする。

その他

- ✦ 次回全日本開催時には、大会運営側の事前ミーティング等十分な再発防止が要望された。
- ✦ 当該大会審査委員より、第 4 戦は悪天候で競技役員・スタッフも大変な状況の中での実務となった。レディースクラス以外でも走路不良でスタック車が続出し、特にコース役員は、走路確保の為にコース内でスタック車の移動補助を行っていたが、競技役員に対し、罵声を浴びせる選手が多い中で IA1 選手から、競技役員へ感謝の言葉をかけられたことが報告された。
 ※ 個人のモラルの問題だけでなく、選手と競技役員の相互協力が大会の成功につながる事を再認識すべき。
- ✦ 選手会よりセーフティゾーンとして考慮されていたスペースを走行していた事例が報告され、雨天時は特に、コースの明確化やコース役員への指示を徹底強化することが要望された。コースは杭の内側でありセーフティゾーンはコース外として認識すること、またコース変更は予め主催者で天候状況を把握し、準備しておくことが確認された。
- ✦ 全日本 MX 第 6 戦 SUGO 大会(全国大会同時開催)の熱中症発生予防対応策に関する資料が提出され、夏季に開催される大会主催者に対し、熱中症患者発生防止への対応と選手会に対し、各選手へ熱中症予防対策の注意喚起を行うよう要望された。

3. MX ネイションズと選手会要望
① 2014 年度 MX ネイションズ日本代表チーム編成について

2014 年 9 月 27 日～28 日 Kegmus (ラトビア)で開催される MX ネイションズ日本代表チームについて選手会より、第 4 戦 SUGO 大会にて選手会ミーティングを行った結果、出場を要望する意見があった為、第 5 戦東北大会において、暫定ランキングを参考に選手をノミネートする予定であることが報告された。

意見

- ✓ 選手会長に権限も無く、選手会でノミネート選手を決定する方法に疑問があり、以前の様に MFJ 内で選考組織を設置してほしい。世界選手権も含めてモトクロスに精通した人物を組み入れてほしい。
- ✓ 全日本ランキングだけでなく、世界選手権に出場している日本人も選考対象に考慮してほしい。

決定事項

- ✦ 既に進行中の為、2014 年度は選手会主導でノミネート選手を選考するが、次年度からは、2014 年度国内競技規則書 215 項にある規定に基づき、ネイションズ選考委員会を組織し、選考することとする。

② 2014MX 選手会スクール実施について

5 月 24 日、関東選手権新潟大会(川西 MX 場)の開催前日土曜日に、MX 選手会より現役国際 A 級ライダーを派遣し、地方選手権ライダーを集めライディングスクールを実施したことが報告された。

6 月 28 日、近畿選手権(三重県 BRT)で開催を予定していた第 2 回のスクールは悪天候で中止し、10 月の近畿選手権で検討していることが報告された。

※今後のスクール実施にあたり、MFJ 保険を適用したいとの意向があり、主催者登録またはインストラクター資格を活用しての講習会申請により保険適用は可能であることが説明され、本部事務局と調整する。

③ MX 選手会からの要望について

現役選手に徴収した意見を MX 選手会にてまとめた資料が提出された。

意見

- ✓ MFJ モトクロス委員会委員の選出は、投票制で行うべき
 - 地区代表委員は、各地区で互選により選出されている。
 - ✓ 全日本 IB 決勝ラスト 2 周位のタイミングで IA2 をグリッドに入れ込み、早めにスタートする体制をとってほしい
 - 集合時間(開始 10 分前)で全員揃えばグリッド移動を早めに開始する対応もできるので、選手のみみなさんに早めに集合して頂く協力もあって実現可能となる。
 - ✓ 全日本 IB はアマチュアクラスなので仮表彰を実施しなくてよいのでは？
 - レディースクラスも含め、IA 同様各選手やチームにサポートしている企業や協力者もあり、必要と考える。
 - ✓ 選手紹介は全員する必要は無いのでは？ (ランキング TOP5 名程度を大々的に紹介すべき)
 - 観客はそれぞれ、応援している選手が異なることが想定されること、サポートしている企業への PR 効果も期待できる為、決勝出走の全員の氏名とチーム名は紹介すべきと認識している。現在は、極力選手紹介に時間をかけない様に、サイティングラップを開始しながら紹介する等の方法を採用している。
 - ✓ 観客席に屋根をつけてほしい
 - 開催施設に依存せざるを得ない提案であるが、レイアウトや経済的理由により難しいのではないかと。
 - ✓ 観客のマナー化を避ける為、シリーズの半分を「全日本」と「スーパークロス」のルールで行うべき
 - 興行的観点だけを考えると有効とも思えるが、競技的観点で考えると規則を統一化すべき。(別シリーズで行える体制を整えることが可能であれば、有効的である)
 - ✓ NB・NA・85・65 のレースを全戦で開催したらどうか？ (パドックの賑やかさ、観客増加に期待)
 - MX 委員会、主催者的にも有効的な提案であるが、現状のタイムスケジュールのままではクラスの追加は困難である。後の議題にもあるが、「全日本選手権開催クラスの統合」や「ヒート数、レース時間の削減」等と併せて検討すべき。
 - ✓ 第 2 戦関東での IA1 選手に対するコースカットの罰則は重すぎでは？ (コースレイアウトも配慮すべき)
 - 競技中の状況で意図的に行われた行為ではないことは認識しているが、結果として距離的に短縮となった点について一周減算の罰則が適用された。
 - 第 3 戦中国大会のレディースクラスにて同様の事例があったと質問された。第 3 戦は当該選手がコーナリング時にバランスを崩し内側にコースアウトし、数メートル先から再コースインした事例であるが、内側が斜面でアウトした箇所からコース復帰できない形状であったこと、当該周回のラップタイム上で確認し、有利に働いていなかったこと、順位が変動しなかったことにより、罰則の対象とはならなかったと説明された。
- ※ コースアウトした場合の行動はケースバイケースの為、判定基準を統一させることは難しいが、コースアウトした箇所に戻ってからコース復帰することが困難な形状又は逆走等の行為で事故を誘発する恐れがある等やむを得ない場合は、その先の地点から再コースインすることを認めざるを得ない。但し、物理的に走行距離が短くなる、順位やタイムが有利に働くことに影響する場合は罰則の対象と判定されるケースが多いと考える。コースアウトした場合は一時停止した状態から再コースインすべき。

- ✓ 開幕戦で暴力行為を行った IA 選手への罰則が軽いと感じた（今後の再発防止の為に）。
- 国内規律裁定委員会で決定した裁定である。MFJ・モトクロス委員会では再発防止に引き続き努めたい。

4. 2015 年度主要競技会日程調整

暫定日程	大会	会場	備考
4 月 4-5 日	九州	HSR 九州	
4 月 18-19 日(変更の可能性)	関東	オフロードビレッジ	※1. 行事日程重複の為、駐車場借用調整必要
第①希望 5 月 16-17 日 第②希望 5 月 9-10 日	中国	グリーンパーク弘楽園	※2. 施設と調整が必要な為、確定せず。
6 月 6-7 日	SUGO	スポーツランド SUGO	
7 月 18-19 日	東北	藤沢スポーツランド	
8 月 1-2 日(変更の可能性) ⇒※後日 8/29-30 へ変更提案	SUGO	スポーツランド SUGO	※3. 全国大会同時開催にて提案されたが、全日本と別日程で開催すべき
9 月 12-13 日	近畿	名阪スポーツランド	
10 月 3-4 日	中国	グリーンパーク弘楽園	※2. 施設と調整が必要な為、確定せず。
10 月 10-11 日(変更の可能性)	関東	オフロードビレッジ	※1. 行事日程重複の為、駐車場借用調整必要
10 月 24-25 日	MFJGP	スポーツランド SUGO	
※後日提案 11/8	全国大会	スポーツランド SUGO	※3. 委員会後提案

- ※1. 年間 2 戦開催希望とするが、川越市内行事と日程重複により観客駐車場の借用を条件として、現在調整を進めている。
- ※2. 暫定日程として提出するが、開催施設との調整を行っていない為、本年 10 月の大会終了後に調整し、決定する予定。
- ※3. 昨年 MX 委員会にて提案された「MX 全国大会開催施設の東西交互開催」の観点で協議されたが、SUGO からのみ開催要望が提出され、2015 年度も SUGO で開催することが了承された。なお、熱中症予防の観点から、選手だけでなく競技役員の体調管理も考慮し、全日本と全国大会の同時開催は避ける理由全国大会の本来の目的として 10 月末までの地方選手権シリーズが終了した後に地区代表選手同士の交流戦として開催すべきとの理由から、11 月に開催できないか？ SUGO の予定を考慮し検討する。

✚ 北海道大会の状況について

MFJ 北海道中山事務局長より、以下進捗状況が報告された。
ルスツ村の MX コースは造成が進められており、8 月に「日露交流エンデューロ」と「全道選手権」を開催し、状況を確認する予定。付帯施設等も含め、全日本開催のメドが立ち次第、本部委員会へ査察要請を行う予定。

✚ 特別競技会の企画案について

2015 年 2 月 21 日(土)～22 日(日)、沖縄県にて“NAGO オールスターモトクロス大会(仮称)”を開催したいとの要望について、NPO 法人こども安全運転振興会(理事長 松田強氏)から企画書が提出された。
概要：会場となる「ImaNAGO Cross Field」が施設特別会員として主催権を取得し、MFJ 特別競技会の格式で開催を希望。車両メーカー各社には、沖縄県の気候を生かし、オフシーズンのキャンプ地として同施設を活用頂きつつ、実戦訓練を想定した同競技会にも参加して頂きたいと希望している。
また、同大会をきっかけとして、沖縄県内のモトクロスファンやライダーの拡大に寄与したい。

意見

- ✓ 車両の搬送等、かかる経費負担が大きい為、参加者負担の条件だと選手を集めることが難しいのでは？

※本件についてはまだ企画段階の為、さらに詳細が決まり次第必要に応じて主催者から説明する機会を設ける。

5. 安全対策について

事務局より安全対策に関する資料が説明された。

観客賠償保険を使用する事例がモトクロス競技会を筆頭に多くなり、結果として保険料掛金の値上げによる競技

会申請料全体を改訂せざるをえなくなった。このまま何も対策をしないと、観客や関係者を巻き込んだ賠償事故が減少せず、さらなる値上げを抑止できなくなる。また、モトクロス競技そのもののイメージダウンにも繋がり、特に保護者の反対で年少者のユーザーが減少することも懸念される。モトクロス競技そのものの存続を考え、安全対策に取り組むべき。

※モトクロス委員会でサーキット安全対策に関する指針をまとめ、全国の施設に啓蒙を図ることが確認された。

提案

- ① インフィールドに観客を立ち入りさせない
 A 案：コースの外周を囲い、内側は選手、PIT クルー、競技役員、プレス以外進入禁止とする
 B 案：コースアウトによりマシンと観客が接触しない地点に観客エリアを設け、それ以外を立入禁止とする
- ② 立入制限のサインボード、コーステープ、ネット等の設置で区域を明確にする
- ③ 2重柵を徹底し、コース杭から約 1m 箇所には 1 次ネット、さらに 3m 以上の間隔を開け 2 次ネット設置し、3m 間隔の通路をエンクロージャースペースとして、競技役員の移動や救護の担架搬送通路に利用する
- ④ 競技役員ヘルメットは劣化・不足していないか？ヘルメット以外に競技役員防護に有効な用品があるか？
- ⑤ コーステープ、ネット等の備品を購入するにあたり、合理的な支給方法の検討
- ⑥ 各地区加盟団体の協力により、現在活動している MX サーキットの情報を集め、安全対策の啓蒙を図る。

意見

- ✓ コースによってはインフィールドが観客エリアとしている場所があるので、観客エリアを制限すべき。
- ✓ ケースバイケースによる対応が必要となる為、観客の進入制限は、施設に任せた方が良い。
- ✓ エンクロージャースペースが確保できないコースがある。
- ✓ 安全対策提案は、施設の設営負担(労力的・経済的)になる為、義務化は難しい。
- ✓ 現状、木杭が採用されているが、プラスチック材質の杭にできないか？調査してほしい。
(1 大会あたり約 300 本の杭が必要とされる)
- ✓ 地方選手権は特に安全対策に希薄な印象がある為、徹底すべき。
- ✓ ヘルメット以外の競技役員防護用品は無い。厚みのある服装は動きが鈍くなる恐れもある。
- ✓ コース役員の立ち位置についても、再検討し、逃げ場を設けるべき。
- ✓ モトクロス競技会会場に関する規定で、1 周平均 50km/h とあるが、55km/h に変更されている。

継続検討

- ✚ 各委員は、以下の意向を加盟団体事務局と協議し、7 月中に本部事務局へ意向を報告する。
 - ✓ コーステープ、立入禁止表示板、ネットの必要希望数の確認
 - ✓ 上記の購入方法(例:本部一括製作→主催者へ販売、販売業者の紹介 等)
 - ✓ 競技役員ヘルメットの状況確認(個数が不足していないか？劣化していないか？)
- ✚ 本部事務局にて、プラスチック製の杭の参考情報や金額を調査し、次回報告する。

6. 2015 年度国内競技規則改訂案

1) IA2 年齢制限規則

前回 MX 委員会で決定した「2015 年適用の IA2 年齢制限」規則が、中央スポーツ委員会により差し戻された為、以下代案について協議し、承認された。(下線部追加)

決定事項

2014 年度 IA1 クラスランキング 1 位～15 位までの選手は IA2 に出場できない
 2014 年度 IA2 クラスランキング 1 位～3 位までの選手は IA2 に出場できない
 (但し、上記該当者でも 25 歳未満の者は、IA2 クラスへの出場が認められる)
 ※2015 年 1 月 1 日～12 月 31 日までに誕生日を迎え 25 歳となる者は除く

意見

前回議事録に基づき、2015 年度より年齢制限規則は撤廃とされているが、IA2 ランキングで 1 位～3 位を獲得した選手を強制的に翌年 IA1 へ出場させるよりも、IA2 クラスに残留を可能とする規則が望ましく、

これまで適用されていた規則を参考に、25 歳未満をガイドラインとして上記規則を追記した。

2) MFJ 中部からの提案について

現状の全日本選手権シリーズの状況を鑑み、将来を見据えた大規模な改革が必要であると認識している。

- ① IA1 と IA2 を IAOPEN に統合する。
- ② IB2 を IBOPEN に統合し、IBOPEN を 2 ヒート制とする
- ③ レディースクラスを 2 ヒート制とする
- ④ 全日本選手権対象クラスとして、ジュニア 85 クラスを新設する
- ⑤ 排気量による年齢制限を撤廃する。(但し、ジュニアクラスはライセンスで決められた 9 歳～15 歳を厳守)
- ⑥ エントリー料金、レース時間、ゼッケンカラーの改訂

意見

- ✓ 現状 450cc 車両での出場台数は少なく、もはやクラスを分けて開催する意味が無い。
- ✓ 地方選手権から見直すべき。特に NA と NB は参加台数からも、統合して行うべきではないか？
- ✓ 地方選手権が成立しなければ、全日本選手権もいずれ危うい状況となることも懸念される。
- ✓ ジュニア 85 クラスは、どの地区も参加台数が多い為、積極的に活性化を図るべきであるが、ジュニア 85 クラスを全日本選手権化したことにより、地方選手権に影響が出る可能性もある為、方法は考えるべき。
- ✓ IA を統合することで、さらに IA クラスの減少に拍車がかかる可能性も懸念される。
- ✓ メーカーの立場からは、IA クラスでオープンにする事(250/450 の区分が無くなる事)は賛成できない。
- ✓ MFJ 事業活動、モトクロス競技会への車両メーカーの協力体制の強化をより一層充実して頂くことが強く望まれる。

継続審議

提案内容を基に、次回委員会までに作業部会を開催し、骨子をまとめる。

3) 川崎重工からの提案について

- ① (要望) 競技役員知識と経験の向上を行う教育を徹底し、安全確保と規則の順守に努めてほしい。
- ② (要望) 第 3 戦でフットレスト先端形状が鋭利であるとの注意を受けたが、専用治具等を準備し、数値で示してほしい。
- ③ (要望) サインエリアにおけるピットクルーの役割とサインボード提示の明確化として、登録された以外のライダーに対しサインボードを提示は禁止との公式通知が今年から明記されているが、周回遅れの選手に対し、ブルーフラッグ提示のフォローにもつながるのではないか？

意見

- ✓ 本部事務局より、1 ライダー最大 2 名までの PIT クルー登録の規則に対し、1 チームに複数のライダーが存在するチームの場合、サインボード提示も含めて有利になる可能性を排除することが真の目的であり、円滑に競技進行が行われることの弊害を生じさせる意図は無い。
- ✓ サインボードの提示を規制するのであれば、ブルーフラッグ提示の対応を正確に行ってもらう必要がある
- ✓ 上位集団以外の選手に対しても、ブルーフラッグ提示を行う必要があり、主催者負担も大きいのでは？

決定事項

ピットクルーの行為は、登録されたライダーに対するもののみ認められるが、サインボードの提示は例外とする。第 5 戦東北大会より適用とする。(公式通知には記載済であるが、ブリーフィングで訂正する)

- ④ (提案) ピットサインエリアにおける安全対策
 - ピットサインエリアは 1 箇所にするべき

決定事項

サインエリアの管理の都合上、主催者にとっても負担が減る為、サインエリアは 1 箇所を原則とする。

※但し、名阪スポーツランドの様に十分なスペースが確保できない会場においては複数箇所となる場合もあり、主催者の権限で認めることとする。

- ピットサインエリアに柵を設置する

決定事項

SUGO、藤沢スポーツランドの様に、ライダーと PIT クルーの衝突防止の為に柵の設置が要望されたが、
会場により柵が設置できない会場もあることから、可能な会場における対応とする。

4) MFJ 関東からの要望

① チャイルドクロスのレース時間の改訂

決定事項 ※2015 年より 5 分+1 週の競技時間に改訂する

② 地方選手権におけるレディースクラスの設定

提案 地方選手権でのレディースクラスの活性化対策が必要である。

全日本選手権シリーズの技量差が大きい為、地方選手権での成績を基準に出場資格を付与したらどうか

継続審議

次回委員会までに作業部会を開催し、検討する。

③ 仮ライセンスメール内容について

MFJ からライセンス会員へ送られている仮ライセンスが簡易的に見える為、偽造等が行われないか？

本部事務局回答：不正防止の対策をとっている為、現状通りで問題無い。

5) 技術規則：車両変更の統一解釈（報告）

車両変更の解釈として、車検終了後、兄弟間で車両自体を交換したいとの要望があった事例が報告されたが、以下の規則で禁止されていることが再確認された。

統一解釈

- 規則書「38 ページ 20 ライダーおよび車両の変更 20-2-2」の通り、公式車検後ライダー同士でマシンを交換することは禁止（マシンごと交換できない）。
- 規則書「198 ページ 18 車両変更 18-1」の通り、当該大会の車検終了後エントリー用紙に記載した車両を変更する場合、競技監督に認められた場合に限り、1 回につき変更手数料 5000 円を払うことで認められる。但し、「車両変更」は、フレームまたはクランクケース（エンジンアッセンブリー含む）の変更の場合のみとし、マシン自体の交換を意味するものではない

6) サテライトチーム監督からの提案

現状、各全日本選手権において、コース査察、散水実施やコース修正の要望、レース時間の短縮化等、競技時に突発的な事例が発生した場合、選手会が窓口となっているが、競技に参加している選手の負担が大きいことに配慮し、チーム監督等、エントラント代表者が窓口となるべきではないか？との提案が提出された。

決定事項

現状通り、選手会を窓口とする。選手会へ事前コース査察への代表者の立会い協力をお願いされた。

7) 排気量区分の統一化（報告）

2015 年国内競技規則書の以下①～③の該当箇所の表を以下の表記に統一することが承認された。

- ① 「196 ページ **8** クラス名称と排気量区分」、② 「216 ページ **1** カテゴリーとクラス」、③ 「226 ページ **1** クラス区分」

クラス	排気量		ライセンス ※①							最多 気筒数	最多変 則段数
	2ストーク	4ストーク	MXIA	MXIB	MXNA	MXNB	MXJ	PC	他		
チャイルドクロス (承認 50cc)	50cc まで	50cc まで	×	×	×	×	○	○	※②	1	—
ジュニア 65 (承認)	50cc を越え 65cc まで	50cc を越え 85cc まで	×	×	×	×	○	○		1	—
85	65cc を越え 85cc まで	85cc を越え 150cc まで	○	○	○	○	○	×		1	6
レディース (85cc)	65cc を越え 85cc まで	85cc を越え 150cc まで	○	○	○	○	○	×	女性	1	6
2	100cc を越え 125cc まで	175cc を越え 250cc まで	○	○	○	○	×	×		1	6
1	175cc を越え 250cc まで	290cc を越え 450cc まで	○	○	○	○	×	×		1	6
OPEN	100cc を越え 125cc まで	175cc を越え 250cc まで	○	○	○	○	×	×		1	6
	175cc を越え 250cc まで	290cc を越え 450cc まで									

※① MXIA (国際 A 級)、MXIB (国際 B 級)、MXNA (国内 A 級)、MXNB (国内 B 級)、MXJ (ジュニア)

※② チャイルドクロス (承認 50cc) は小学校 3 年生以下の MX ジュニアライセンス又は PC ライセンス所持者が参加対象

継続審議

東北地区より、現状東北選手権で開催されているクラスとの整合性を図る為、ジュニア 65cc クラス(承認)の 4st 上限を 110cc に変更すること、ジュニア 65cc(承認)の 2st&4st の下限を 49cc とし、50cc 車両も出場を可能とすることが要望された。上記表は原則として公認競技会で適用され、承認格式クラスは、主催者の判断により運用で例外が認められることが確認され、東北提案については次回再審議とされた。

8) スプロケットカバーの形状

モトクロス国内技術仕様における、前回技術委員会にて否決されたスプロケットカバーの形状サンプルが提出され、車検における解釈の参考とされた。

9) WEB カメラについて

全日本で適用されている申請料 5000 円を撤廃してほしいとの要望が上がった。

継続審議

メーカー担当者より、「撮影された映像、肖像権の権利の確認、整理を行う必要がある」ことが指摘され、肖像権等の対応に精通しているスポーツランド SUGO の事例を参考に、次回委員会までに事務局にて調査・報告する。

7. 委員会再編について

MFJ 組織改革について MFJ 事務局より説明され、本会を以てモトクロス委員会を解散とするが、次期委員会確定まではその任務は継続されることが確認された。

- 中央スポーツ委員会でビジョンを策定、確認を行うよう指導的な立場とし、各専門委員会が指導に則り、活動を展開していくよう改編する。
- スノーモビル、モータード、エンデュロを部会から委員会へ昇格。
- セーフティ委員会を新設し、装備部会(ヘルメット・スーツ)とメディカル部会が連なる。
- すべての委員会で一旦解散とし、再編を行う。
- メーカー担当者の委員就任については、モトクロスでオブザーバー出席している観点からも、委員として活動して頂くよう調整を進めている。

8. その他

- 🚩 プレスの佐藤敏光氏より、第 7 戦近畿大会において、アマチュアカメラマンを対象とした写真教室の実施企画書が提出され、承認された。



✚ プレスの木田淑氏より、運営するファンサイト“MXing”に投稿された意見が報告された。

以上

17 時閉会

MFJ モトクロス委員会 委員長 田中隆造